

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月9日

【四半期会計期間】 第109期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

【会社名】 東京産業株式会社

【英訳名】 TOKYO SANGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 里見 利夫

【本店の所在の場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 企画本部長 蒲原 稔
執行役員 管理本部長 堀 哲雄

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町二丁目2番1号(新大手町ビル8階)

【電話番号】 03(5203局)7690番(代表)

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 企画本部長 蒲原 稔
執行役員 管理本部長 堀 哲雄

【縦覧に供する場所】 東京産業株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅三丁目28番12号(大名古屋ビルヂング21階))
東京産業株式会社 関西支店
(神戸市中央区海岸通3番地(シップ神戸海岸ビル8階))
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第108期 第2四半期累計期間	第109期 第2四半期累計期間	第108期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(百万円)	42,925	59,354	104,586
経常利益	(百万円)	666	1,541	2,335
四半期(当期)純利益	(百万円)	533	1,058	1,627
持分法を適用した場合の 投資利益	(百万円)			
資本金	(百万円)	3,443	3,443	3,443
発行済株式総数	(株)	28,678,486	28,678,486	28,678,486
純資産額	(百万円)	22,275	23,986	22,962
総資産額	(百万円)	40,451	56,387	59,716
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	19.86	39.38	60.59
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	7.00	9.00	18.00
自己資本比率	(%)	55.1	42.5	38.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,381	1,775	5,857
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	665	2,017	1,653
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	280	666	2,413
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	6,975	12,268	13,124

回次		第108期 第2四半期会計期間	第109期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	10.08	11.83

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、利益基準及び利益剰余金基準から見て重要性がないため、記載を省略しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定において、株式付与ESOP信託が保有する当社株式(第108期第2四半期累計期間は601,150株、第108期は597,600株、第109期第2四半期累計期間は590,500株)及び役員報酬BIP信託が保有する当社株式(第108期第2四半期累計期間は248,250株、第108期は248,250株、第109期第2四半期累計期間は229,750株)を自己株式として処理していることから、期中平均株式数から当該株式数を控除しております。
5. 第108期の1株当たり配当額18.00円には、創立70周年記念配当3.00円を含んでおります。
6. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、前第2四半期累計期間及び前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営んでいる事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前会計年度との比較・分析を行っております。

財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和策の継続を背景にして、企業収益や雇用環境の改善など、景気は緩やかな回復基調を維持しておりますが、貿易摩擦や相次ぐ自然災害などの不安要素による影響が懸念されます。また、世界経済は、保護主義の台頭や金融緩和策からの転換など、依然として先行き不透明な状況となっております。

このようななか、財政状態及び経営成績は以下のとおりであります。

財政状態

(資産の部)

当第2四半期会計期間末における総資産は、563億87百万円となり、前事業年度末と比較して33億28百万円の減少となりました。主な要因として、投資その他の資産の増加により固定資産が19億93百万円増加したものの、売掛債権の減少等により流動資産が53億22百万円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当第2四半期会計期間末における負債合計は324億1百万円となり、前事業年度末と比較して43億52百万円の減少となりました。この主な要因は、仕入債務の減少等により流動負債が45億円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は239億86百万円となり、前事業年度末と比較して10億23百万円の増加となりました。この結果、自己資本比率は42.5%となりました。

経営成績

当社の第2四半期累計期間の成約高は、前年同四半期に比べ39百万円減少の686億62百万円(前年同四半期比0.1%減)となりました。

売上高につきましては、前年同四半期に比べ164億28百万円増加の593億54百万円(前年同四半期比38.3%増)となりました。

売上総利益は38億69百万円(前年同四半期比8億86百万円増、29.7%増)、営業利益12億93百万円(前年同四半期比7億98百万円増、161.5%増)、経常利益15億41百万円(前年同四半期比8億75百万円増、131.4%増)、四半期純利益10億58百万円(前年同四半期比5億25百万円増、98.5%増)となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

(電力事業)

売上高は242億61百万円と前年同四半期に比べ20億61百万円の減少となっております。また、成約高は323億94百万円(前年同四半期比97億80百万円減)、成約残高は705億73百万円(前年同四半期比98億67百万円増)となりました。

(化学・環境事業)

売上高は266億51百万円と前年同四半期に比べ178億60百万円の増加となっております。また、成約高は275億31百万円(前年同四半期比94億20百万円増)、成約残高は476億18百万円(前年同四半期比110億70百万円増)となりました。

(電子精機事業)

売上高は53億92百万円と前年同四半期に比べ96百万円の増加となっております。また、成約高は55億円(前年同四半期比2億16百万円減)、成約残高は45億67百万円(前年同四半期比3億81百万円減)となりました。

(生活関連事業)

売上高は29億80百万円と前年同四半期に比べ5億32百万円の増加となっております。また、成約高は31億68百万円(前年同四半期比5億38百万円増)、成約残高は31億20百万円(前年同四半期比7億52百万円増)となりました。

(その他)

売上高は67百万円と前年同四半期に比べ0百万円の減少となっております。また、成約高は67百万円(前年同四半期比0百万円減)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末に比べ8億56百万円減少し、122億68百万円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、増加した資金は17億75百万円となりました。主な資金の増加要因としては、売上債権の減少額66億9百万円、前受金の増加額21億55百万円であり、主な資金の減少要因としては、仕入債務の減少額61億66百万円、前渡金の増加額19億12百万円であります。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、減少した資金は20億17百万円となりました。収入の主な内訳は、有形固定資産の売却による収入6百万円、関係会社貸付金の回収による収入1百万円であり、支出の主な内訳は、匿名組合出資金の払込による支出11億37百万円、有形固定資産の取得による支出6億94百万円であります。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、減少した資金は6億66百万円であります。これは主に、短期借入金の返済による支出や、配当金の支払によるものであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,678,486	28,678,486	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	28,678,486	28,678,486		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年9月30日		28,678		3,443		2,655

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三菱日立パワーシステムズ株式会社	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目3番1号	3,913	14.11
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番1号	3,849	13.88
CGML PB CLIENT ACCOUNT/ COLLATERAL (常任代理人 シティ バンク、エヌ・エイ東京支店)	CITIGROUP CENTRE, CANADA SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 5LB (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	2,334	8.42
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,981	7.14
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号	1,026	3.70
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	676	2.44
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(株式付与ESOP信託 口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	590	2.13
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティ バンク、エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300,BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	554	2.00
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	500	1.80
三菱化工機株式会社	神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号	480	1.73
計		15,907	57.38

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式958,757株があります。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)の所有株式590,500株は、株式付与ESOP信託の制度導入に伴う当社株式であります。
3. 平成29年6月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社が平成29年5月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、その大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号	4,001	13.95

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 958,700		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 27,674,300	276,743	同上
単元未満株式	普通株式 45,486		同上
発行済株式総数	28,678,486		
総株主の議決権		276,743	

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式57株及び証券保管振替機構名義株式78株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式590,500株(議決権の数5,905個)、同社(役員報酬BIP信託口)が保有する当社株式229,700株(議決権の数2,297個)及び証券保管振替機構名義株式400株(議決権の数4個)が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京産業株式会社	東京都千代田区 大手町二丁目2番1号	958,700		958,700	3.34
計		958,700		958,700	3.34

(注) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式590,500株、同社(役員報酬BIP信託口)が保有する当社株式229,700株は、上記自己株式には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,114	11,358
受取手形及び売掛金	27,852	21,243
有価証券	2,099	2,000
商品	745	864
前渡金	1,573	3,485
その他	247	353
貸倒引当金	13	7
流動資産合計	44,621	39,298
固定資産		
有形固定資産	6,545	6,895
無形固定資産	116	83
投資その他の資産		
投資有価証券	5,105	5,371
その他	3,336	4,747
貸倒引当金	8	8
投資その他の資産合計	8,432	10,109
固定資産合計	15,095	17,088
資産合計	59,716	56,387
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,098	7,392
受託販売未払金	14,189	8,749
短期借入金	1,570	1,260
未払法人税等	498	481
前受金	6,228	8,383
引当金	379	358
その他	752	591
流動負債合計	31,716	27,216
固定負債		
長期借入金	3,010	3,005
引当金	200	198
その他	1,826	1,980
固定負債合計	5,036	5,184
負債合計	36,753	32,401

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金	2,821	2,822
利益剰余金	15,824	16,578
自己株式	693	681
株主資本合計	21,395	22,162
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,574	1,758
繰延ヘッジ損益	43	28
土地再評価差額金	36	36
評価・換算差額等合計	1,567	1,823
純資産合計	22,962	23,986
負債純資産合計	59,716	56,387

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	42,925	59,354
売上原価	39,942	55,484
売上総利益	2,983	3,869
割賦販売未実現利益戻入額	2	2
差引売上総利益	2,986	3,872
販売費及び一般管理費	2,491	2,579
営業利益	494	1,293
営業外収益		
受取利息	7	6
受取配当金	145	166
為替差益	-	51
その他	47	60
営業外収益合計	200	285
営業外費用		
支払利息	21	35
為替差損	1	-
その他	4	1
営業外費用合計	28	36
経常利益	666	1,541
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	26	-
受取保険金	88	0
特別利益合計	115	0
特別損失		
固定資産処分損	0	-
特別損失合計	0	-
税引前四半期純利益	781	1,542
法人税、住民税及び事業税	203	476
法人税等調整額	44	6
法人税等合計	248	483
四半期純利益	533	1,058

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	781	1,542
減価償却費	212	253
受取保険金	88	0
投資有価証券売却損益（は益）	26	-
有形固定資産売却損益（は益）	0	-
有形固定資産処分損益（は益）	0	-
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	5
賞与引当金の増減額（は減少）	16	28
役員賞与引当金の増減額（は減少）	40	50
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	19	-
受取利息及び受取配当金	153	172
支払利息	21	35
売上債権の増減額（は増加）	3,929	6,609
たな卸資産の増減額（は増加）	67	119
前渡金の増減額（は増加）	832	1,912
前払年金費用の増減額（は増加）	170	99
仕入債務の増減額（は減少）	3,110	6,166
前受金の増減額（は減少）	896	2,155
未払又は未収消費税等の増減額	24	53
その他	122	60
小計	1,447	2,093
利息及び配当金の受取額	152	167
利息の支払額	21	36
保険金の受取額	88	45
法人税等の支払額	286	494
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,381	1,775
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	500	-
有形固定資産の取得による支出	1,187	694
有形固定資産の売却による収入	9	6
無形固定資産の取得による支出	1	0
関係会社出資金の払込による支出	1	107
関係会社株式の取得による支出	-	75
匿名組合出資金の払込による支出	-	1,137
投資有価証券の取得による支出	0	0
投資有価証券の売却及び償還による収入	37	-
関係会社貸付けによる支出	22	12
関係会社貸付金の回収による収入	-	1
従業員に対する長期貸付金の回収による収入	0	1
信託受益権の取得による支出	-	1,000
信託受益権の償還による収入	-	1,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	665	2,017

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	860	550
短期借入金の返済による支出	860	860
長期借入金の返済による支出	5	5
リース債務の返済による支出	55	51
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の処分による収入	2	4
配当金の支払額	221	303
財務活動によるキャッシュ・フロー	280	666
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	52
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	432	856
現金及び現金同等物の期首残高	6,542	13,124
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,975	12,268

【注記事項】

(追加情報)

(株式付与ESOP信託に係る取引について)

当社は、当社従業員への福利厚生を目的として、従業員インセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」(以下、「本信託」という。)を導入しております。

(1)取引の概要

当社が従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定いたします。本信託は、予め定める株式交付規定に基づき従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当によって取得いたします。

その後本信託は、株式交付規定に従い、信託期間中の従業員の職務等級及び会社業績等に応じた当社株式を在職時に従業員に交付いたします。本信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、従業員の負担はありません。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用しております。

(2)信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しており、前事業年度末における帳簿価額は282百万円、株式数は597,600株、当第2四半期会計期間末における帳簿価額は279百万円、株式数は590,500株であります。

(役員報酬BIP信託に係る取引について)

当社は、取締役(社外取締役を除く。)並びに、当社と委任契約を締結している執行役員及び同等の地位を有する者(以下、「取締役等」という。)を対象に、当社の中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的として、「役員報酬BIP信託」(以下、「本信託」という。)を導入しております。

(1)取引の概要

当社が、取締役等のうち一定の受益者要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定いたします。本信託は、予め定める株式交付規定に基づき、取締役等に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社からの第三者割当により取得いたします。

その後本信託は、株式交付規定に従い、一定の受益者要件を満たす取締役等に対して、毎事業年度における業績指標等に応じて決定される株数の当社株式を退任時に交付いたします。

当該信託契約に係る会計処理については、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じております。

(2)信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しており、前事業年度末における帳簿価額は128百万円、株式数は248,250株、当第2四半期会計期間末における帳簿価額は118百万円、株式数は229,750株であります。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形等

四半期会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形等が、四半期会計期間末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	360百万円	175百万円
電子記録債権	2百万円	122百万円
支払手形	606百万円	464百万円

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
従業員給料手当	793百万円	818百万円
退職給付費用	0百万円	7百万円
賞与引当金繰入額	323百万円	353百万円
従業員株式給付引当金繰入額	21百万円	9百万円
役員株式給付引当金繰入額	7百万円	3百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円	5百万円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金	6,865百万円	11,358百万円
有価証券勘定		
債権信託受益権	199百万円	1,000百万円
計	7,065百万円	12,358百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	90百万円	90百万円
現金及び現金同等物	6,975百万円	12,268百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	221	8.00	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注) 平成29年6月29日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金4百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月30日 取締役会	普通株式	194	7.00	平成29年9月30日	平成29年12月4日	利益剰余金

(注) 平成29年10月30日取締役会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金4百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。

当第2四半期累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	304	11.00	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金

(注) 1. 平成30年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金6百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2. 1株当たり配当額には創立70周年記念配当3.00円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年10月29日 取締役会	普通株式	249	9.00	平成30年9月30日	平成30年12月5日	利益剰余金

(注) 平成30年10月29日取締役会決議による配当金の総額には、株式付与ESOP信託口が保有する自社の株式に対する配当金5百万円及び役員報酬BIP信託口が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(持分法損益等)

当社が有しているすべての関連会社は、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性の乏しい関連会社であるため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力事業	化学・環境 事業	電子精機 事業	生活関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	26,322	8,791	5,295	2,448	42,858	67	42,925
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	26,322	8,791	5,295	2,448	42,858	67	42,925
セグメント利益	154	205	43	60	465	29	494

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	465
「その他」の区分の利益	29
四半期損益計算書の営業利益	494

当第2四半期累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電力事業	化学・環境 事業	電子精機 事業	生活関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	24,261	26,651	5,392	2,980	59,286	67	59,354
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	24,261	26,651	5,392	2,980	59,286	67	59,354
セグメント利益	165	938	54	106	1,264	29	1,293

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,264
「その他」の区分の利益	29
四半期損益計算書の営業利益	1,293

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	19円86銭	39円38銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	533	1,058
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	533	1,058
普通株式の期中平均株式数(株)	26,863,023	26,887,974

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- (前第2四半期累計期間)
- ・株式付与ESOP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 604,449株
 - ・役員報酬BIP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 253,164株
- (当第2四半期累計期間)
- ・株式付与ESOP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 592,400株
 - ・役員報酬BIP信託が保有する自己株式
期中平均の自己株式数 239,521株

2 【その他】

第109期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当については、平成30年10月29日開催の取締役会において、平成30年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	249百万円
1株当たりの金額	9.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年12月5日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月9日

東京産業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 能 周

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芦 川 弘

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京産業株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第109期事業年度の第2四半期会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、東京産業株式会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。